

# りんご産業イノベーション戦略《概要版》

人口減少や、T P P 大筋合意によって今後見込まれる一層のグローバル化などの環境下において、産地、そして産業として持続的に発展していくためには、これまでにない新たな視点や地域内外における多様なアイデア、ノウハウとの連携によってイノベーションを巻き起こし、課題を克服していくことが重要です。

このことから、技術革新をはじめとする様々な新たな取り組みに挑戦し、「りんご産業」の強化・一層の成長産業化による地方創生を成し遂げるために「りんご産業イノベーション戦略」を策定します。

## ■ 一大産地としての強み

本市は長い歴史の中で様々な困難を克服し一大産地として成長してきましたが、その過程で構築された「強み・優位性」を絞り込んで整理すると以下のとおりと考えられます。生産・流通・加工の各分野においてイノベーションを積み上げ、4つの「強み・優位性」の強化や新たな「強み・優位性」を創出していくことによって、りんご産業の成長産業化を図る必要があります。

最大の強み・優位性	
生産量約18万トン前後、 販売額400億円前後の規模	雪国において長年受け継がれてきた 高品質りんごの栽培技術
周年供給体制の確立	一大産地としての 盤石な出荷体制

## ■ イノベーションによって解決すべき課題

りんご産業においては様々な課題が存在すると考えられますが、特にイノベーションを巻き起こし集中的に取り組んでいくべき主な課題を整理すると、以下のとおりと考えられます。

生産分野	流通分野	加工分野
<ul style="list-style-type: none"><li>● 高所での作業による負担軽減（機械化含む）</li><li>● 重量物の運搬による負担軽減（機械化含む）</li><li>● 更なる作業工程の高効率化</li><li>● 新たな仕立て方・栽培手法の導入</li><li>● 新たな働き方の確立</li><li>● 労働力の確保</li><li>● 職業としての魅力増大</li><li>● グローバル化を見据えた国際標準への対応</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 集出荷システムの更なるオートメーション化</li><li>● 重量物の運搬による負担軽減（機械化含む）</li><li>● コールドチェーンの構築による更なる保冷・鮮度維持</li><li>● 小口需要に対応した物流システムの構築</li><li>● 戦略的な消費拡大と国内需要の掘り起し</li><li>● T P P を見据えた販売戦略の構築</li><li>● 新たな輸出先の開拓</li><li>● バリューチェーンの構築による高付加価値化</li><li>● グローバル化を見据えた国際標準への対応</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ニーズを捉えた新商品開発及び販路開拓</li><li>● 原料及び加工品の高付加価値化</li><li>● 加工専用も含めた新たな生産モデル構築</li><li>● 長期保存や加工に適した新品種の育成</li><li>● 地域内加工体制の強化</li><li>● 健康機能性を活かした新商品開発</li></ul>

# ■ ビジョン1 ～目指す姿

戦略期間を平成28年度から平成37年度までの10年間とし、あるべき姿として次の状況を目指します。

- ▶ 日本の果樹産業を担う「りんご」の拠点化
- ▶ 日本の農業が抱える課題解決のモデル地域への成長

# ■ ビジョン2 ～目指す規模（努力目標）

イノベーションによって生産、流通、加工の各分野や関連産業を活性化し、生産規模と販売規模の成長を目指します。

- 新たな海外販路開拓
  - ターゲットを絞った新たな国内需要の掘り起し
- りんご販売額⇒+50億円

(国輸出目標ではH26からH32までに国産りんご輸出60億円増を見込むことを踏まえる。)

- 国内外既存ルート活性化による消費のさらなる定着
- りんご販売額⇒400億円

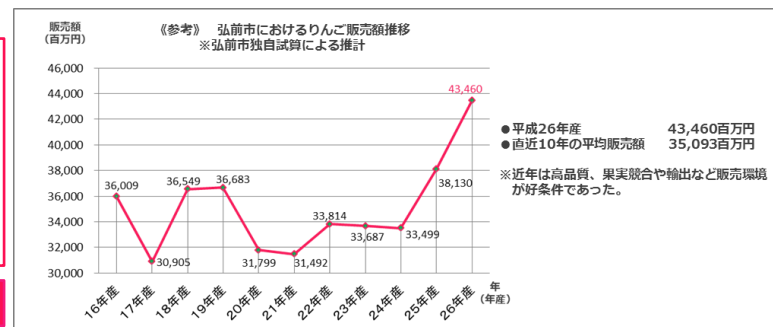
既存のりんご生果・加工品

## 生産規模の成長と関連産業の活性によるりんごの販売額向上 「10年後、500億円規模への成長」

- ニーズを捉えた新たな商品開発
- りんご販売額⇒+50億円

(健康機能性成分の活用を踏まえた新商品や、例えばシードル、カットりんごなどの新たな加工品の増産体制、観光や製造産業などとの連携による新事業の派生によって成されるりんごの高付加価値化を踏まえる。)

新品種りんご生果・加工品



# ■ 「強み・優位性」を強化する取り組みの方向性

4つの「強み・優位性」を強化する取り組みの方向性として3つのイノベーションを目指していきます。

## 生産イノベーション ～生産力の強化・成長

- ① 作業負担軽減のための新技術の実証研究や導入促進等による、誰でも可能な「りんごづくり」
- ② 多様な労働力の活躍
- ③ 新たな働き方のモデル構築
- ④ 職業としての魅力のさらなる増大
- ⑤ グローバル化に対応した生産体制の研究・構築

## 流通イノベーション ～商品力の強化・成長

- ① 出荷システム等のオートメーション化、新技術の実証研究や導入を促進
- ② 多様化する消費者ニーズの把握、新たなコールドチェーンモデル構築
- ③ バリューチェーンのモデル構築
- ④ 健康機能性を踏まえた戦略的な消費拡大と国内需要の掘り起し
- ⑤ TPPを見据えた情報収集、グローバル化に対応した出荷体制の研究・構築、新たな海外販路開拓

## 加工イノベーション ～付加価値力の強化・成長

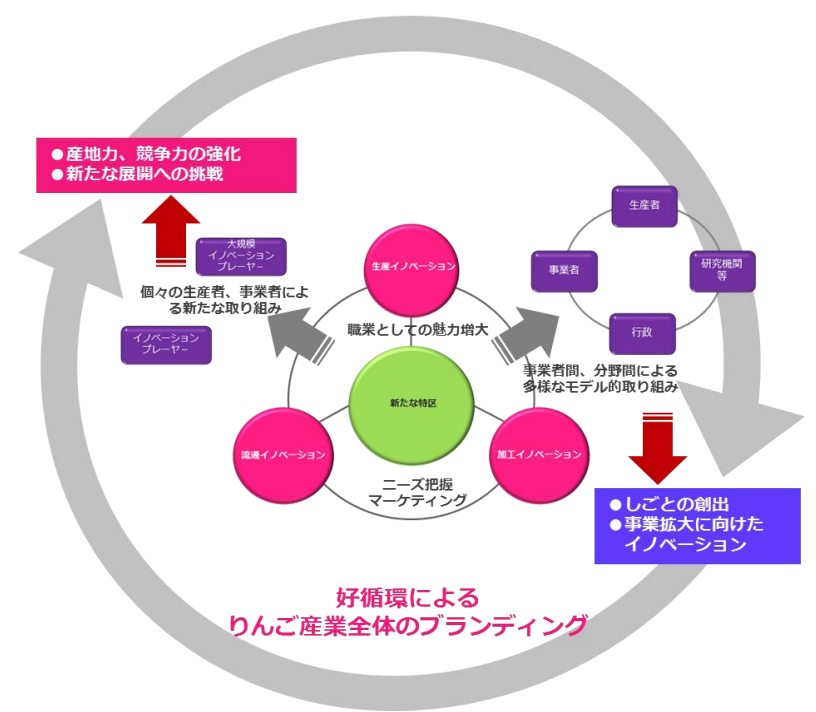
- ① 人材シェアリング等の事業モデル構築
- ② 加工用りんごの安定供給、高付加価値化、加工専用園も含めた新たな生産モデル構築
- ③ 長期保存、加工に適した新品種の育成と高付加価値化
- ④ ニーズを捉えた加工品開発、投資促進の仕組みづくりの構築
- ⑤ 健康機能性成分に着目した付加価値の高い商品開発

# ■ イノベーションに向けたアプローチ

イノベーションを進めるため重点ポイントとして以下のとおり整理します。

- 生産者や事業者が個々に行うイノベーションの促進
- 行政、生産者、事業者、研究機関等が連携して取り組む「主体間連携」や、生産、流通、加工の「分野間連携」によって行うイノベーション
- 革新的なアイデアの実証実験フィールドの一つとして「弘前市りんご公園」を活用

新たな「しごと」が生まれ、その「しごと」を進めるうえでの省力化など、さらなる事業拡大に向けた対策が必要となり、再びイノベーションに取り組む、そして、新たな雇用や働き方が生まれるほか、新ビジネスへ派生していくなど、職業としての魅力が拡大するというような好循環を構築・連鎖させることによって、産地としての競争力を高め、「産業」としてのブランディングを図っていきます。



# ■ イノベーションを進めるための具体的な取り組み

3つのイノベーションを着実に成し遂げるために、消費者ニーズの把握やマーケティング等をしっかりと行うとともに、プレイヤーとなる生産者、事業者の新たなチャレンジの後押しのみならず、行政、生産者、事業者、研究機関等との連携関係を構築し、意識を共有しながらりんご産業の強化・一層の成長産業化に向けて取り組みます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値 (H37)	基準値 (H27)
イノベーションプレイヤー数	40事業者	3事業者
連携事業数 (行政、生産者、事業者、研究機関等との連携)	20事業	1事業

短期  
モデル構築・  
新技術実証導入

## 取り組み1 イノベーションプレイヤーの育成

経営規模に応じた実証研究や、新たな取り組みを後押しするなど、チャレンジしやすい環境づくりに取り組むとともに、その成果を波及させ、イノベーションの横展開を目指します。

中期  
イノベーション  
事例の普及

## 取り組み2 企業連携のフィールドづくり

地域内外の無数のアイデアや技術と産地の強みを組み合わせ、互いのノウハウを活かした新たな優位性を創出するため、様々な「連携」による自立可能な事業モデルの構築に取り組めます。

長期  
イノベーション  
の確立

## 取り組み3 イノベーションプレイヤーのさらなる拡大

本市りんご産業の強み・優位性をさらに強化するために、中核となり得る事業規模の大きいイノベーションプレイヤーの拡大に取り組みます。

## 取り組み4 イノベーションを加速させる特区構想の策定と提案

イノベーションプレイヤーの育成・拡大や事業者連携によるイノベーションを加速させるため、規制緩和やりんご産業に対する投資の促進、農業のモデル地域化を目指す特区構想の策定に取り組めます。